普天間飛行場の跡地を考える若手の会
本土視察研修会まとめ

～国営昭和記念公園・多摩ニュータウン～

1.　視察会の概要　…… 1
2.　視察会（講義）の内容　…… 4
3.　視察会の様子　…… 15
4.　視察会を踏まえた若手の会のとりまとめ　…… 23

視察日：平成１８年１１月２３日（木）～２５日（土）
とりまとめ：平成18年12月12日（第9回若手の会）

１．　視察会の概要

（１）視察会の目的

今年度の若手の会では、跡地利用計画段階の議論に備え、先進地視察研修会等の積極的実施によりまちづくりに関する情報収集・事例研究を行い、若手の会における議論の幅、内容の進化を目指すことを一つのテーマとして活動を実施している。

跡地利用計画策定の段階では、これまでの合意形成活動の成果から見ても、跡地利用基本方針に位置づけられた「(仮)普天間公園」、「段階的な計画づくり」等についての合意形成を図っていくことがポイントになると考えられる。

こうしたことを踏まえ、本視察研修会は、本土における大規模公園として「国営昭和記念公園」、大規模な地区において段階的なまちづくりが行われた「多摩ニュータウン」を対象として、主に下記事項を把握することを目的として実施した。

【国営昭和記念公園】

・まちづくりの中での大規模公園の活用のされ方
・大規模公園としての整備内容と整備効果

【多摩ニュータウン】

・大規模地区におけるまちづくりの進め方

（２）視察会の行程

日　時		内　容	備　考
11/23 （木）	9：50	那覇空港集合	３階 JAL 出発ロビーへ各自集合
	10：40	那覇空港出発	JTA052
	12：50	羽田空港到着	
	13：10	羽田空港出発	貸し切りバス車内で昼食
	14：30	国営昭和記念公園到着	現地見学
	16：30	国営昭和記念公園出発	
	17：00	宿泊先ホテル到着	パレスホテル立川（立川駅前）
	18：00	夕食	
	20：00	解散	
11/24 （金）	9：00	宿泊先ホテル出発	
	9：30	国営昭和記念公園事務所到着	講義、現地見学
	11：30	国営昭和記念公園事務所出発	
	12：00	多摩ニュータウン到着	
		昼食	
	13：30	都市機構到着	講義、現地見学
	17：00	都市機構出発	
	17：30	宿泊先ホテル到着	パレスホテル立川（立川駅前）
	18：00	夕食	
	20：00	解散	
11/25 （土）	9：00	宿泊先ホテル出発	
	9：30	江戸東京たてもの園等	
	12：00	昼食	
	14：30	羽田空港到着	
	15：50	羽田空港出発	JAL1927
	18：40	那覇空港到着、解散	

（３）参加者名簿

（敬称略）

	所　属・役　職	氏　名	備　考
1	普天間飛行場の跡地を考える若手の会会長	大　川　　正　彦	野　嵩
2	普天間飛行場の跡地を考える若手の会副会長	天　久　　眞　一	大謝名
3	普天間飛行場の跡地を考える若手の会副会長	呉　屋　　力	喜友名
4	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	伊　佐　　善　一	大　山
5	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	宮　城　　武	野　嵩
6	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	末　吉　　良　光	大　山
7	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	又　吉　　建　栄	伊　佐
8	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	呉　屋　　栄　治	喜友名
9	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	宮　城　　敏　彦	神　山
10	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	仲　本　　秀　樹	上　原
11	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	島　袋　　尚　太	真志喜
12	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	佐喜眞　　淳	新　城
13	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	仲　本　　勇　樹	上　原
14	沖縄国際大学講師	上江洲　　純　子	関係地権者等の意向醸成・活動推進調査検討委員会副委員長
15	宜野湾市基地政策部基地跡地対策課課長	和　田　　敬　悟	
16	宜野湾市基地政策部基地跡地対策課係長	又　吉　　直　広	
17	宜野湾市基地政策部基地跡地対策課主事	塩　川　　浩　志	
18	昭和株式会社	安　藤　　彰　二	
19	昭和株式会社	板　倉　　慎	
20	昭和株式会社	立　山　　善　宏	
21	昭和株式会社	雨　宮　　知　宏	

２． 視察会（講義）の内容

（１）国営昭和記念公園

【講義の内容】

①「過去の経緯」について

◆現在昭和記念公園がある場所は、大正 10 年に陸軍の飛行場として整備されたという経緯があり、民間飛行場としても使用され、羽田ができる前の東京の飛行場は立川のみであり、大阪などと結んでいたという時代があった。その後米軍により接収されたが、その間に朝鮮戦争と砂川闘争があった。砂川闘争は大型輸送機に対応するために、現在の公園の北側に拡張するという話があり、民有地を接収するにあたって、国と地元で大闘争が起こったものである。最終的には拡張を諦めたため、基地機能が衰退し機能停止に至った。

◆昭和記念公園に関する国の計画ができる前には、地元の東京都・昭島・立川それぞれで事業構想があり、その中に大規模公園があった。

◆当時の東京都のスタンスは「自衛隊はいらない」というもので、立川市は保守、昭島市は革新姿勢であったため、議会と市当局がつりあわず、地元の意見がなかなかまとまらなかったという時代があった。

◆立川基地の跡地利用は、公園・広域防災基地・業務地・留保地の 4 つの土地利用の色が計画され、最終的な調整は大蔵省が行い、国土庁の計画局が事務局となっていた。一方で東京都の都市計画部局を中心に、466ha だけではなく、広域的な位置づけとして多摩地域・東京都・首都圏にとって土地利用をどのようにすべきか、どのような機能を持たせるべきかという議論が行われた。その結果、横浜や大宮のような首都圏の業務機能を分散させるための業務核都市として位置づけられ、跡地内の内容や公園の位置などが決まった。

◆跡地利用の際に、公園整備と一体的に周辺市街地とのアクセス道路等を考え、南北方向に 2 本の道路が設置されている。なお、東西方向は都心から放射状に延びている既存道路があったため設けられなかった。跡地内にまず道路の位置が決まり、当時地震等もあったため、滑走路機能も残さなければならないということで、相対的に公園の位置も決まった。

◆鉄道については、都心から放射状に延びているが、南北を結ぶものがないということでモノレール構想があったが、この実現には政治的な動きが関連している。当時の鈴木知事の出身地が昭島市で高校が立川であったため、「多摩地域の活性化のためにモノレールが必要である」という公約が立てられ実現したというのがある。

◆昭和 58 年に７０ha で開園したときには、周辺道路が整備されておらず、公園事務所への入口も 1 箇所しかなかった。今の形になったのは 5 年前ぐらいなので、構想を立ててから 30 年というかなり息の長いまちづくりである。長期にわたるものではあるが、実現したのは地元の熱い思いがあったからではないかと思う。

◆留保地は 2 箇所にあり、立川駅側については順調に用途が決定され土地利用が進

んでいるが、公園の西側については雑木林になってしまっている状況である。周辺の市街地については、公共投資で経済活性化をしようという流れの中で計画が熟した時期であったため、再開発やモノレール等の公共事業が進んでいった。また、立川市が主催していた立川競輪等による自主財源が多くあったことが、これらを支えていたというところがある。周辺市街地を含めた大きな構想を作ったことで、立川駅は現在では全国で 13 番目に乗降客数の多い駅となっている。

②「国営公園整備の背景」について

◆立川基地跡地の国営公園化のきっかけとなったのは、地元を含めて、東京都にも大規模公園構想がもともとあったということと、時を同じくして昭和天皇が長く座位し、それを記念する事業として公園構想が持ち上がったためである。当時総務省が、後世に何かを残すための記念事業として何をやるべきかと各省庁に募集をかけた際に、建設省では国営公園、農林水産省は樹林地を残すべきだとなり、最終的に国営公園が決まった。

◆昭和 47 年に都市整備 5 カ年計画というものができ、全国的に公園面積を増やそうという流れの中で、その方策を国も探していた。昭和 51 年に法律が改正され、国が事業主体となることが正式に決まったことも大きなきっかけの 1 つである。

◆御座位 50 周年記念事業として昭和記念公園を造ることが決まり、どこに造るのかとなった際、候補地としてあがっていたのは、立川の他に神奈川県の葉山町・逗子市のあたりである。葉山町は大正天皇が静養されていた場所で、当時の皇太子であった昭和天皇が看病に葉山町に行っていたときに亡くなられ、その瞬間に昭和天皇は即位している。そのため葉山町や逗子市のあたりの人にしてみれば、昭和という時代は自分たちの土地から始まったという意識もあって是非昭和記念公園という話があった。また、立川と同様に基地跡地があり、それを種地として建設しようと考えていた。その他にも、国有地で土地利用がなされていなかった茨城県の射爆撃場の 1,000ha など、何箇所の候補地があった。

◆葉山町と熱心な綱引き合戦となったが、地元の人たちが要望書を国に持って行ったという話もあり、最終的に立川に決まったのは地元の熱意が強かったことも大きな要因になっていると思われる。

③「公園の整備の内容とまちづくりとの関係」について

◆公園内は、全体で山→野原→海という日本の自然の流れが表現されている。東側については都市的な流れにしようということで、今は緑が多くなっているが当初はコンサートホールや美術館等の文化施設を作り、都市的整備を行って「芸術文化ゾーン」として周辺の商業地とつながりを持たせるという考えを持っていた。公園の特徴としては、一番外側に管理道を設置し車両系が通るようにし、その内側にサイクリングコースを設定し、さらに内側に人が歩くところを造るという形態がある。

◆公園の利用実績としては、平成 17 年度で 285 万人のお客様を迎えているが、初めからこんなに多かったわけではなく、昭和 58 年に完成したときには年間 70 万

人で、昭和の時代は年間 100 万～120 万人であった。昭和 60 年代から平成に入って池・プール・運動施設・子どものための施設を造ったことで爆発的に増え、その後 200 万人ぐらいになっている。

◆今の昭和記念公園の最大の弱点は、国の官公庁が多くあるにもかかわらず、高速道路からアクセスできない点である。

◆まちづくりとの関連で言うと、広場系のものができたので、地元を中心に企業・住民・NPO 等からイベントを持ち込んでもらって開催しており、ほとんど土日は何かしらのイベントが行われており、同時に 2～3 個のイベントが行われているときもある。参加者だけでなく応援する人などもいるので、1 万人を超えるイベントが数多く開催されている。（市民マラソン大会・箱根駅伝予選会、市民音楽祭、立川駅周辺と協同でのイルミネーションイベント等）。また、平日は学校の遠足での利用も多い。

◆昨年の 11 月に文化ゾーンをあけて、文化の拠点として「花みどり文化センター」を造ったが、ここは小規模のイベントに相当利用してもらっており、街中に近いため市民系の活動のイベントが非常に増えている。もともとは芸術系の大きな建物を造る予定だったが、開園から十数年イベントを行ってもらっているうちに、なにも芸術やコンサートだけが文化ではなく「自分たちが行っていることこそが文化活動だ」ということに気付き、公園を造って緑を回復させてきたというプロセスそのものを市民の方に見てもらおうということで、徹底的に緑系の文化活動を行うことになった。そして名前も「文化施設ゾーン」から「緑の文化ゾーン」となり、遠回りはしたが良い落ち着き先になったと感じているし、大きい建物がなく迫力はないが、身の丈にあった整備ができたと思う。花みどり文化センターは市民活動でよく利用されている。市長が言っていることだが、基地のまちであったのが今では公園のまち・みどりのまちと呼ばれるようになったと聞いているし、最近商工会議所のあたりでは、「はなまちこころ実行委員会」という組織体を作り、街中で花のイベント等の活動も行われている。立川駅周辺では共同のイルミネーションイベントも行われており、公園のあるまちづくりが進められている。

【質疑応答の内容】

質問：普天間飛行場跡地に国営公園をつくろうとする場合に、何かよいヒントがあればお聞きしたい。

回答：首里城を復元する際に、本省の直轄係長だったのだが、当時「復元は沖縄県民の大きな期待であり、国としてやるべきではないか」という思いが大変強い人がいたが、沖縄の海洋博公園整備の経緯から考えるとありえないと思っていた。しかしそれが実現しており、国を突き動かしたのは強い思いがあったからであると思うし、また、国と県で一緒に取り組んだというのが当時はめずらしいことであり、よかったのではないだろうかと思う。そういった経験を踏まえると、普天間飛行場において国営公園がまったく無理だとは言い切れないと思う。常に出てくるのは、なぜ国営化の必要があるのかということであり、普天間飛行場においても国が関与するべき理屈・意義をまとめないといけないと思われる。

質問：今年は入場者数が 300 万人を超えるとのことだが、当初からこんなに入ると計画していたのか教えていただきたい。

回答：当時武蔵丘陵森林公園が 300ha の有料公園として 130 万人ぐらいしか入っていなかった。その時代に計算したところ、昭和記念公園では 300 万人という数字が出てきた。正直それだけの人数を集めるのは自信がなかったが、事業の意義を高める意味合いもあって目標値とした。これだけの入場者を狙って当たったというわけでは必ずしもないが、先人たちの積み重ねがあった中でこのような結果になっていると思う。

質問：公園の中で一番入場者の多い場所は子ども向けの施設なのか。

回答：施設ごとにデータを取っているわけではないが、年間通して入場者が多いのは花だと思う。しかし、花だけあれば来てもらえるわけではなく、管理の行き届いた大きな施設の中に花が展開されているというところに何か感じるものがあって来てもらえているのだと思う。

質問：公園の管理は管理財団の方でやられていると思うが、その職員がどのくらいいて、地元の人を優先的に採用するなどの雇用形態をとっているのか教えていただきたい。

回答：正規社員は 30 名ほどで、それ以外のゲート係・売店・清掃・パトロール等は長期アルバイトという形で雇っており、それを含めると全部で 100 名強いる。季節的にプールの時期やチューリップやコスモス等の花の時期には、学生等を短期アルバイトとして雇っており、その求人方法はハローワークや求人誌で行っており、特別地域の方にこだわって採用しているわけではないが、立川市や周辺市町村に配布されている求人誌やハローワークを使用しているので、必然的に地元から採用しているような形になっているのが今の状況である。

質問：公園内の盆栽や植物がすごく整っていてきれいだと感じたのだが、花や植物の管理は専門の職員を雇って行っているのか、業者にお願いしているのか教えていただきたい。

回答：盆栽類に関しては、知識に長けている人を雇って直営管理を行っており、その他の公園全体の植物管理については、造園会社の方にエリアと内容ごとに分けて発注している。発注にあたっては、単純に業者に依頼するのではなく、このような時期にはこのような管理をしてほしいという指示をしている。

質問：昭和記念公園を含め立川飛行場は、もともと国有地であったのか教えていただきたい。

回答：466ha についてはもともと全部が国有地であって、そこが普天間飛行場とは大きく異なる点である。

質問：昭和記念公園による周辺への経済効果としてどのようなことがあるのか教えていただきたい。

回答：金額ベースに置き換えたことはないが、一番大きいのは立川のまちのイメージが「基地のまち」から「公園のあるまち・緑のあるまち」に変わり、「立川＝昭和記念公園」となってきていることがあると思う。テレビ番組のまちのイメージ調査においても１位が昭和記念公園であった。また、公園と市街地がうまくつながってきており、公園利用者が立川駅周辺の商業地を利用するような関係が濃密になりつつあるのではとも思う。

質問：財団の運営は入園料だけで賄えるものなのか教えていただきたい。

回答：今の仕組みは、国から出るお金と入るお金が別会計になっており、独立採算になっていないため、赤字か黒字かという議論にはなっていない。

質問：　公園のテーマが「緑の回復と人間性の向上」となっているが、いつごろ設定し、なぜこのようになったのか教えていただきたい。

回答：テーマの設定は、昭和 53 年に公園を造ろうとなった際に、有識者 20 名ほどを集めて議論してもらい、そこで決められたようである。言葉の意味するところは、昭和 40 年代はまさに高度経済成長による負の遺産がたくさん生まれ、自然が失われたという大きな反省から、緑というのは樹木だけではなく自然環境を含めて残さなければいけないということでこのテーマが出てきた。今となっては当たり前の考え方だが、当時は強いメッセージであったと思う。

質問：公園内は緑が豊富で川も流れているが、これらは当時の基地内にあったものを活用しているのか。また、段階的に施設を造っていく際に、どのように内容を決定していくのか教えていただきたい。

回答：樹木について言うと、おそらく９割以上は新たに植えられたものである。残りの基地内にあった樹木についてだが、基地内に入れない状況で既に公園の絵を描いてしまっており、後に実際の状況と重ね合わせてみると「この木を切ってしまうのか」というのが多く出てきたため、基地内に残っていた数千本を調査し、その行き場を決める作業を行った。各施設の決定の方法だが、みんなの原っぱに大きなケヤキが１本あるが、この木が見える原っぱを造りたいという当時の所長の願いがあり、まず初めにそれが決まった。各エリアとも昭和５０年代に作られた計画に基づいており、北側に農村風景のコンセプトのエリアを新しく入れた以外は、当時の計画を忠実に表現している。この計画はエリアごとに大まかなコンセプトを作っておき、実際に造る際に細い設計をしていくというやり方である。また、計画がなくなったものとして、宿泊施設と野外ステージがある。公園内の川はもともと別の場所を流れていたものである。水辺の創出については、日本庭園から水を流して野原を流れて池にたどり着いており、その水を処理し、また戻すという循環を行っており、その水をろ過して中水利用も行っている。

質問：年間 200 万人以上の入園者がいるということだが、利用者層や平日・休日の割合はどのようになっているのか教えていただきたい。

回答：公園を造ったときはニューファミリーと言われていた 30 代・40 代が圧倒的に多く、現在は子どもから手が離れたその世代がそのままスライドして利用しているようであり、そのため 50 代・60 代が多くなっている。また、その中でも女性の友達同士で来園するケースが多く、全体的に女性が多くなっている。平日利用は７千～8 千人で休日はその３倍くらいであるが、花の季節になると平日でも１万人近い利用者がいる。

質問：これだけ広いとホームレスがテントを持ってきて居候する場合もあると思うが、どのような状況なのか教えていただきたい。

回答：ホームレスが来るかもしれないという想定はしていたが、有料公園であることと、無料の区域を含めて夜間閉めているため、今のところそのような動きは見られない。だと考えられる。しかし、状況をよく聞いてみると、駐車場で顔を洗っている人もいるようである。

質問：基地のイメージから緑のイメージに変わってきているとのことだが、歴史的に基地であったということを語り継ぐような工夫等をしていたら教えていただきたい。

回答：基地であったということを語り継ぐようなことは特にはしていないが、当初の計画では今の砂川口は北口となっていたものの、砂川闘争という時代背景を忘れないということを名前として刻むために、砂川口に変更したというのがある。

質問：公園づくりを行う際の市民参加で工夫していることがあれば教えていただきたい。

回答：公園全体では、12 団体約 1,000 名がボランティアとして登録しており、みなさんの知識を活用しながら管理やイベント計画を行っている。募集の方法は、公募ともともとある団体が参加する 2 種類がある。年間延べ日数で言うと 14,000 日なので、一人当たり年間約 14 日参加している状況である。現在造っている「こもれびの里」はまさに市民参加の象徴と言える。多摩ニュータウンの建設残土を持ち込んで「武蔵野」「農業」をテーマにやっているのだが、市民公募をしてそのような土の悪いところを開墾してもらい、日常の作業とともにどのようなものを作っていけばよいのかということを、ワークショップを行いながら考えている。

質問：公園と防災を結びつけて考えていると思うが、具体的に公園内に防災施設があれば教えていただきたい。

回答：相当後になってからではあるが、立川と昭島の地域防災計画に昭和記念公園を広域避難所として位置づけている。現在の公園の計画でいうと、地元の市民７万人を含めた逃げ込み場所として 11 万人がいるということを前提に計画して、１人 1 日分（1リットル）分は水を確保しようということで 50t 入るタンク

を園内で３機設置してある。それから、井戸水を汲み上げられるようになっており、いざとなった時に生活用水として利用できるようになっている。地元に市と協定を結んで水源を確保できるようになっているが、あくまで一時避難場所であり、究極的には地元の公民館等でやってもらうという役割分担となっている。あとは、出入り口に夜間照明ができるようにソーラーパネルがある。

（２）多摩ニュータウン

【講義の内容】

①「多摩ニュータウン建設の目的」について

◆多摩ニュータウンの建設構想は昭和 30 年代にスタートした。急増する東京への人口流入とそれにともなう住宅難は深刻な社会問題となっていた。無秩序な開発を防ぎながら、住宅を大量に計画的に供給することを目的に、昭和 41 年新住宅市街地開発事業として多摩ニュータウンの事業が開始された。入居は昭和 46 年に開始され、開発当初は画一的な集合住宅の建設が中心だったが、その後多様な集合住宅・戸建住宅が次々と建設され、多摩ニュータウンがたどった軌跡は日本の戦後の住宅開発の歴史そのものといえる。

②「多摩ニュータウンの特徴」について

◆東京都心から西に 25～４０キロ圏の多摩丘陵に位置し、東西およそ 14 キロ、南北 3～4 キロの細長い形をしていて、新住宅市街地開発事業と区画整理事業の 2 つの手法で開発された総面積 2,980ha、計画人口約 30 万人のまちである。

◆周辺道路は中央自動車道稲城インターチェンジの開設により、都心へのアクセスが大いに改善された。多摩ニュータウンの道路網は、東西に伸びる 3 本の幹線道路とこれに交差する９本の幹線道路で構成されている。

◆多摩ニュータウンの特徴は大きく 3 つあり、まず面積が大きいこと、事業主体が東京都・住宅供給公社・都市機構の３者であること、そして開発手法については新住宅市街地開発事業と区画整理事業の 2 つによって開発が進められたことである。

◆多摩市の約 6 割が多摩ニュータウン区域となっており、その他にも八王子市・稲城市・町田市と全部で 4 市にまたがっていて、面積で比較してみると、山手線内の約半分を占めるくらいの規模となっている。

◆なぜ新住宅市街地開発事業と区画整理事業の 2 つで行われているかというと、昭和 40 年代のこのエリアは地形的にほとんどが山林で、その中に川が流れていて川沿いには集落があった。集落の部分については区画整理事業で開発を進め、山林の部分については全面買収で行う新住宅開発事業によって開発が進められた。およそ 3,000ha という大規模なエリアであり、なかなか一度には開発できないため、昭和 46 年から 5 年おきぐらいずつエリアを広げていくという時間をかけたまちづくりが行われていった。

③「各地区の特徴」について

◆多摩ニュータウン第 1 期入居地区の諏訪永山地区は、近隣住区論の考えに沿って計画され、学校を中心に 4～5 階建ての集合住宅、公園、近隣センターの建設が進められた。その後多様な住宅へと展開し、多摩ニュータウン初のタウンハウスも誕生した。昭和 49 年の鉄道開通と合わせて開業した商業施設をはじめ、レジャー施設等駅周辺にさまざまな施設が建設されている。

◆昭和 50 年代前半の第 2 期入居地区となった貝取豊ヶ丘地区では、歩行者と車を分離するために歩行者専用道路が計画的に整備された。また、自然の地形を残すため斜面住宅等自然と調和する住宅群が誕生した。

◆ほぼ中央に位置する落合鶴牧地区は、昭和 50 年代後半に入居が開始された。住宅は量から質の時代になり、景観を重視した新しいコンセプトによるまちづくりがスタートし、地区の中心には基幹空間と名づけたオープンスペースを設けてある。3 つの大きな公園をリング状につなぎ、その緑豊かな空間の中にタウンハウスなどの中低層住宅を配置し、公園と住宅の調和を図っている。

◆聖ヶ丘地区は昭和 50 年代後半に入居が開始され、戸建住宅を中心としたまちづくりが進められ、地元工務店による建物付宅地分譲が始まった。住宅地の中に路地や筋広場を設け、歩行者と車の共存を目指したコミュニティ道路もつくられた。

◆唐木田地区は、平成 2 年の小田急線唐木田駅の開設後に入居が開始された。戸建住宅やガーデン道路と呼ばれるコミュニティ道路に沿って立ち並び、家々の緑は街路にまで溶け込んでいる。

◆最も東に位置するファインヒル稲城向陽台は、昭和 60 年代前半に入居が開始された。自然環境の保全と住環境の融合を目指し、丘陵地形を最大限に活かした生活空間の整備を行っている。高い位置には高層住宅を、中腹には中層住宅を、そして裾野には低層住宅を配置し、眺望を活かしたまちづくりを進めている。地区中央を通っている道路を生活環境軸と位置づけ、その沿道には商業・公益・医療等の生活に欠かせない施設を配置し、安全で賑やかな街並みが展開している。ファインヒル稲城に新しく登場した長峰地区は、太陽の光や熱を利用したり、雨水の再利用や雑木林の復元などの環境共生の考え方をまち全体に積極的に取り入れている。

④「高齢化」について

◆人口は、昭和 46 年に本格的な入居が始まってから現在までおよそ 20 万人が入居している。多摩ニュータウンというと高齢化が進み、オールドタウンになったと言われるが、実際に高齢化率を見てみると、当初入居地区の諏訪永山地区については 20%前後であり、東京都の高齢化率がおよそ 18%なのでほぼ同じである。段階的に開発が進められるのにしたがって高齢化率も変化し、平成 11 年から始まった若葉台地区については 5%となっている。時間をかけてまちづくりを進めているということで、地域によって高齢化率のばらつきがあり、他の住宅地と違って多摩ニュータウンについては段階的に高齢化が進んでいる。当初開発を行った永山地区については、昭和４８年当時の団塊の世代と言われていた 20 代後半～30

代前半の世代が大半を占めていて、開発が進み平成 18 年になるとその人たちがそのまま持ち上がってくる。ただこのエリアは賃貸住宅が中心でだいぶ入れ替わりが生じていて、東京都の人口構成と比較してみても概ね変わらないような状況である。一方で聖ヶ丘地区は宅地分譲で普通の戸建の家が多い地区だが、当時入った団塊の世代がそのままいて、東京都の人口構成と比較するとだいぶ偏りが出ている。高齢化の問題は、賃貸エリアより戸建エリアや集合の分譲が多いエリアにおいて、世代間のバランスが崩れて様々な問題がこれから発生してくるのではないかと考えている。

◆多摩ニュータウンでは、高齢者を含めた世代の人達が安心して暮らせることをビジョンとし、5 年ごとに開発を進めてきたため、地区ごとの高齢化の状況に応じて地区ごとにで課題を解決し対応していきたいと考えている。高齢者への支援や戸建の住み替えの支援、できるだけ若い方に入ってもらうという安全安心のまちづくり、できるだけサポートしていけるまちづくりを進められるようにしたいと考えている。多摩ニュータウンを見渡してみると、ＮＰＯなどの様々な組織が活動しているので、そういった方々や、団塊の世代のリタイアした人たちに協力してもらおうと考えている。

【質疑応答の内容】

質問：多摩ニュータウンは全地域にわたり土地を買い上げて開発を行っていったものなのか。区画整理の中でも地権者と一緒になって分譲住宅を作っているところもあるのか。

回答：新住宅開発事業と言われている場所が土地を買収したところで、一部土地区画整理事業で行った部分がある。区画整理は東京都の住宅公社が中心となって行われたのだが、これは宅地を供給するためのものであって、その上に建つ建物等の土地活用については地権者それぞれで行っている。

質問：開発コンセプトはそれぞれの地区で決められているのか。

回答：多摩ニュータウンは、近隣住区論に基づいて設定してある「住区」という 1 住区 100ha ほどの地区に区切り、21 の住区ごとに開発コンセプトを決めており、開発される時代によって要求されるものが異なるため、地区によって様々である。一番初めに開発された諏訪永山地区は住宅不足の解消ということで住宅だけの供給となっていたが、開発が進むにつれて個性のある住宅など多様なコンセプトがでてくるようになってきた。

質問：文化財調査に時間がかかったと聞いたが、どの程度の期間を要したのか。

回答：住区ごとに調査をしたと思うが、詳細な期間は把握していない。

質問：共同溝の設置は何パーセントぐらいなのか。

回答：全体の何パーセントというわけではないが、多摩ニュータウンの中心地区である多摩センター地区について共同溝を使っている状況である。その他に細々した電線の地中化などは、全域で行っているわけではないが、戸建の住宅などエ

リアによってやっていたりやっていなかったりしている。

質問：多摩ニュータウンに住んでおり、かつ多摩ニュータウンで働いている人はどのくらいいるのか。

回答：多摩ニュータウンに住んでいて、かつ働いている人の数は把握していないが、多摩ニュータウンの外も含めて、多摩ニュータウンに働きに来ている人は５万６千人いる。

質問：治安維持のためにやっていることは何かあるのか。

回答：業務用に使っている車で安全安心パトロールをしている。

質問：多摩ニュータウンに住んでいた人が、同じニュータウン内で新しくできたエリアに移動するというケースがあるのか。

回答：分譲住宅などは、最初に賃貸で入って、その後にマンションを買ったり戸建に入ったりという流れがあるので、新しい地区に移り住んでいく人もいるようである。最近では駅前にマンションが建つようになったので、多摩ニュータウンでも中心から離れているエリアから多摩センター地区などの新都心に移ってくる人は多いようである。

質問：多摩ニュータウンでは、規模が大きいということもあり、最初のころは官主導の住宅供給が進められ、平成 13 年頃からは民間中心に移っていったとあるが、行政が方針だけ示して、あとは民間に任せるという手法も可能なのかをお聞きしたい。

回答：住宅不足を解消するために、大量供給が必要であったが、その当時は民間の賃貸市場が形成されていなかったために、公団がその使命を負ったという時代背景があり、公団がメインになっていた。しかし今は民間が成熟しているので、そういったことも含めて特殊法人改革で新規の住宅供給から撤退した。まず分譲住宅から撤退し、賃貸についても４大都市圏に限って都心居住に資するようなものと言われていたが、それも建て替えがらみでなくてはならず、しかも戻りを目的とするためのものだけとなってきており、あとは民間の事業者に借地として貸してそこに建ててもらうという「民間供給資源型賃貸住宅」にシフトしていくと言っている。今後公団が新規の住宅を供給するのは、建て替えのごく一部になるということになっている。さらに都市機構になってから徹底して言われているのが、今ある賃貸住宅の資産を民間に売り移していくということがある。普天間飛行場は約 500ha と大規模であり、民間の開発にはリスクが大きいと思うので、どれだけリスクを負えるか、そして行政がどれだけリスクを減らすことができるかが重要になると考えられる。

質問：緑・オープンスペースの面積が全体の 30%となっているが、そのように設定した理由は何なのか。また、景観に関して行われている取り組みは何かあるか。

回答：当初どのように決めたかという細かいことはわからないが、当時東京都と各市町村が業務を進めていく中でそのようになっていったと考えられる。景観については、多摩センター地区に関しては、エリアに景観ガイドラインというものが設けられている。資料があるので後でお渡ししたい。

３． 視察会の様子

羽田空港から昭和記念公園に向かうバス社内の様子（11／23 PM）

バス車内で公園の見学ルートを話し合う
グループメンバー

国営昭和記念公園視察会の様子（11／23 PM）

昭和記念公園入口での記念写真

３グループにわかれて、
自転車で公園内を移動しながら見学

決められた駐輪場から、各施設、
広場へは歩いて移動

日本庭園内を見学する様子

みんなの原っぱを見学するメンバー

展望台から
公園全体を見学するメンバー

昭和記念公園事務所での講義の様子（11／24 AM

講義していただいた国営公園事務所及び管理財団の方々

講義中の様子

昭和天皇記念館見学の様子（11／24 AM）

園内を説明してもらいながら、
昭和天皇記念館まで移動

昭和天皇記念館屋上の見学の様子

昭和天皇記念館

都市再生機構多摩事業部での講義の様子（11／24 PM）

講義していただいた職員の方々

講義中の様子

講義中の様子

多摩ニュータウン見学の様子（11／24 PM）

諏訪地区を見学している様子

バスで各地区を廻っての視察

若葉台公園の見学の様子

多摩センター地区にある「ベネッセコーポレーションビル」の展望台（２１Ｆ）から全域を見渡す

長池公園を見学するメンバー

唐木田地区（八王子市）にある
長池ネイチャーセンターの見学

江戸東京たてもの園見学の様子（11／25　AM）

江戸東京たてもの園見学の様子

資料館見学の様子

資料館見学の様子

４．視察会を踏まえた若手の会のとりまとめ

第９回普天間飛行場の跡地を考える若手の会　**本土視察研修会を踏まえたとりまとめ（全体）**

視察会を踏まえた感想

国営昭和記念公園

国営公園整備までの経緯について

■昭和天皇御座位 50 年という節目とも重なって誕生しており、そういった時代の環境とのタイミングの重要性を感じた。国営公園の誘致には、地元の強い思いや要望が欠かせない。
■全域が国有地だったので、広大な国営の公園が可能だったのではないか。
■国で運営されているが、地域住民・市・都それぞれが大規模公園の必要性を感じ、一体となって計画がつくられたことを知った。
■地元の熱意が最終的に立川に選定された大きな要因だったことを知った。強い意志や信念が国営公園という大きな成果につながったと思う。

公園の管理について

■一度来た人が「また来たい」と思えるような、心身ともにリフレッシュできるつくりだったと思う。ただ広いだけのように見えて、管理が行き届いている所に驚いた。市や県がつくる公園とだいぶ違うように見えた。
■公園管理上も苗畑等の大規模なバックヤードが必要である事を感じた。
■美ら海水族館と昭和記念公園では、管理にかかる人数が全然違い、施設管理に関わる雇用はあまり創出されていなかった。
■知識に長けた職員がいて管理していることや、委託業者にも細かい管理方法を指示している事は、管理に対する熱意や誇りみたいなものを感じた。
■1,000 人ものボランティアが参加していることから、地元の人たちの協働意識や関心の高さを感じた。
■夜間門を閉めているためホームレスがおらず、安心して遊べる公園だと思った。

施設整備について

■広大なみんなの原っぱは、皆が一つの場所で様々に休日を楽しんでいる光景が見られ、見ているだけでほのぼのした。
■子供用施設があるおかげで集客力が向上している。また、文化ゾーンもあって良い。
■全域が歩道・自転車道・車道で完全に分離されていたのは、非常によいつくりだと感心した。
■サイクリングコースは外回りや内回りコース等、結構な距離もあって運動にもよい。
■木を１本１本調査し移植していったことは、歴史・自然を残すことにつながりよいと思った。
■ドッグランが設けられており、愛犬家もイヌものびのびと楽しんでいた。

空間イメージついて

■美ら海水族館のようなインパクトのある施設はなかったが、どこへ行ってもそれなりに楽しむことができ、バランスが取れていると感じた。
■海洋博公園と比べ、「憩いの場」として活用されているイメージが強かった。また、自分の家の近くにあるとよいと感じた。このように感じさせれば、リピーターを多くえられると感じた。
■公園に関しては、自然・緑の重要性、特に命の象徴としての「水」というテーマに魅力を感じた。
■年代に合わせたゾーンをつくり、子どもからお年寄りまで遊べる公園という印象を受けた。
■これといった特別な施設は無かったが、自然に触れたり自由に走り回るには必要な規模であり、大きすぎることはなかった。
■基地の町というイメージを払拭していた。米軍基地であったという歴史を残す取り組みはされていない。
■注目を浴びるような施設がなくても集客できるのは、「自然の再生」というしっかりしたコンセプトがあるためだと思った。そのためには、社会情勢や将来の社会像などにも興味を持っていくことが必要である。

公園へのアクセスについて

■公園整備と同時に、アクセスとなる周辺道路の計画も必要である。昭和記念公園には、高速道路からの広域アクセスが弱いという弱点があった。
■東西南北から公園にアクセスできて利用しやすい。

まちづくりとの関連について

■イベント等のソフト施策を展開することで来園者を確保していた。
■街と一体となったイルミネーションイベントを開催しており、より一層街と公園がつながっているという感覚が得られた。
■公園のイベントとして、教育目的でのイベント誘致は集客を計算できる。（マラソン・遠足等）
■公園をつくることで町のイメージを一変でき、定住者の増加につなげることもできる。

多摩ニュータウン

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

■それぞれの地区で異なったコンセプト設定をしており、ニュータウンというくくりの中に様々な顔を持つ地区があった。
■景観がすばらしく、街路樹など街全体がきれいに整備され、自然との調和が取れていた。
■５年スパンぐらいで様々な特徴の地区が段階的につくられていることで、同時に高齢化問題等が起こるような状況をうまく回避している。長続きするまちのつくり方だと感じた。
■普天間基地の６倍の広さを開発し、より良い住宅・職場・教育環境を整えて行くのは、一朝一夕で出来るものではないと思った。
■新住や区画整理事業で整備された地域であるが、地主の理解と協力があってはじめてできた大規模開発だと感じた。
■居住空間に溶け込んだ自然としての「水（池や川）」に魅力を感じた。
■まちの中に緑が多くあり、緑と調和したまちづくりを行っていた。
■多摩ニュータウンの中心である多摩センター地区は、景観ガイドラインがつくられていて、きれいな街並みだった。
■大規模であっても景観上の調和がしっかり取れていないと美しいまちとは言えないことを感じた。

■「百聞は一見にしかず」であり、見て学ぶことが大事だと思った。また、視察会は会の団結にもつながるので非常に大事である。

普天間飛行場跡地利用では…

大規模公園のあり方について

規模について

■公園として独立した空間をつくり上げる上では、100ha 規模は大きすぎない。
■大規模公園に 100ha が必要なのか考える必要がある。

管理について

■公園の管理を徹底し、ごみや野犬などの危険があってはならない。
■ホームレスが宿泊できないような方策も考える必要がある。
■管理面で、ボランティアの活用も検討すべきである。

整備主体について

■管理面・集客力・地域の雇用効果・経済効果を考えると、是非国営公園としたい。

国営公園誘致までの取り組みについて

■まずは国営にするための理念を考えることが最重要と思った。
■基地跡地であったのは普天間と同じだが、国有地であった事を踏まえると、国営の大規模公園を計画するのであれば早めに用地を確保する必要があると思う。

つくり方（整備内容）及び活用方法について

■昭和記念公園は、海・陸・空を連想した公園である。普天間跡地に公園をつくる時も、このバランスを取り入れたい。
■公園をつくる上で自生樹木を活かすためには、事前の調査が必要である。（立川は、十分な情報がなく、立ち入り可能となってから調査し、計画をつくり直している）
■昭和記念公園は全体の形がＬ字型になっており、その地形を活かした施設の配置がされているが、普天間においても、地形や高低差等を考慮して、他の公園とは違う独自性のある公園にしていかなければ長期的な利用がされないと思う。
■花火大会やマラソン大会等で集客を図っているので、普天間公園でもあらゆるイベントを行っていくべきなのかと感じた。
■海洋博公園のような「集客力」と、昭和記念公園のような「身近さ」がうまく混ざり合った内容の公園づくりができれば良いと感じた。
■人が集まりやすいことを考える必要がある。（子供向け施設、遊具等）
■集まれる雰囲気づくりが大切である。誰でも参加できるような、そして安らげるような場としたい。
■大人も含めた健康づくりに、サイクリングコースは最適である。
■普天間基地跡ということで、飛行機博物館等もおもしろいのではないかと思う。
■普天間公園では、雇用創出につながるような施設整備もありではないか。
■普天間公園では、歴史をふんだんに取り入れたものにすべきと思った。
■100ha を一度ではなく、その時のニーズを踏まえて段階的に整備してもよいのではと思う。
■企業的な公園なのか、市民・県民の癒しのための公園なのかを考える必要がある。
■防災機能の活用や滑走路の活用等を考える必要がある。

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

景観・緑について

■住宅街の緑化に力を入れるべきである。(屋上緑化も推奨する)
■普天間でも特に拠点的な場所では景観のルールをつくり、他に誇れるまちづくりが必要である。
■地域ごとに地区計画を設定するとよいのでは。
■住民の意向醸成で意思統一したガイドラインみたいなものをつくりたい

まちのつくり方について

■多摩センター地区のようなペデストリアンデッキを導入して各地区をつなぎ、まち全体につながりを持たせたい。
■ベネッセコーポレーションビルのような展望台を普天間飛行場の中心につくり、県内を一望できるようにしたい。
■まちづくりにおいては、人の動線が大事である。遊歩道などの「連絡動線」の設置が必要である。
■480ha 全体を大規模公園のようなイメージで整備し、その中でまちづくりを行うべきである。
■スケルトン型のまちづくりを考えても良いのではと思う。

整備の進め方について

■段階的にまちをつくっていき、多種多様な人たちが集まるようにしたい。
■時代の変化に対応できるまちづくりの進め方(段階型)を検討していく必要がある
■周辺市街地との調整は大いに重要である。
■民間活力をいかに最大限に取り入れるかが重要である。

その他

■立川市は「基地の町」から「公園のある町･緑のある町」に変わった。普天間も変われると思うので頑張りたい。
■モノレールの誘致には強い政治力が必要だと思う。政治家とのコミュニケーションが大事である。
■国･県･市･地権者の協力が不可欠である。また、イデオロギーは排除すべきである。
■新住宅市街地開発事業の良い点･悪い点を整理し、学習したい。

第９回普天間飛行場の跡地を考える若手の会　**本土視察研修会を踏まえたとりまとめ（Ａグループ）**

視察会を踏まえた感想

国営昭和記念公園

国営公園整備までの経緯について

昭和記念公園は、地元・都・国がそれぞれ大規模公園の必要性を感じているという好機に恵まれ、昭和天皇御座位50年という節目とも重なって誕生したものと言える。そういった時代の環境と、地元の熱意を加えて、背後にかなり大きな政治力が必要であると感じた。

県や市ではなく、「何故国が」「国が創らなければ」と誰もが思える理由を戦略的に考え、「声」を挙げて行かなければ、これからは「国営」は望めないと痛感した。普天間の跡地でも実現できると感じた。

国営公園の誘致には、地元の強い思いや要望が欠かせない。他候補地もある中で立川市に決定したのは、地元の誘致についての行動が決め手であった。強い信念や意思が、国営公園という大きな成果につながったと思う。

公園のつくり方について

単なる大規模公園ではなく、地域住民や来園する人たちが楽しめ、心身ともにリフレッシュできる公園管理及び運営をしていると感じた。

ドッグランが設けられており、愛犬家もイヌものびのびと楽しんでいた。

人・自転車・車の通る道をきれいに整理し分離させていた。そのため、自転車を利用する人は気持ちよくサイクリングが楽しめるし、歩く人は安心して園内を回ることができているのだろうと感じた。サイクリングロードも一方通行となっており、標識も見易く移動しやすかった。

海洋博公園と比較すると、「憩いの場」として活用されているイメージが強かった。また、自分の家の近くにあるとよいと感じた。このように感じさせれば、リピーターを多くえられるのだろうと感じた。

公園の管理について

180ha と広大な公園であったが、きちんと管理されており、チリなども見あたらなかった。遊歩道は犬連れの人も多く、マナーもすばらしく感じた。ゴミの見えない所は、汚すのが申し訳なく思うのだろうか。市や県のつくる公園とだいぶ違うように見えた。

市民がボランティアとして参加しており、こもれびの里は整備段階から取り組んでいた。

一度来た人が「また来たい」と思えるようなつくりだったと思う。ただ広いだけのように見えて、管理が行き届いている所に驚いた。

その他

公園をつくることで町のイメージを一変することができ、定住者の増加につなげることもできる。（立川駅の乗降客数は有楽町駅と競うほど伸びている）

施設を整備して集客力を上げようとしたが、施設をつくっていない現状の土地利用の中で、イベント等のソフト施策を展開することで集客可能と判断していた。事実、計画通りの来園者を確保していた。

注目を浴びるような施設がなくても集客できるのは、「自然の再生」というしっかりしたコンセプトがあるためだと思った。そのためには、社会情勢や将来の社会像などにも興味を持っていくことが必要である。

公園のイベントとして、教育目的でのイベント誘致は集客を計算できる。（マラソン・遠足等）

多摩ニュータウン

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

それぞれの地区で異なったコンセプト設定をしており、ニュータウンというくくりの中に様々な顔を持つ地区があった。また、景観がすばらしく、街路樹など街全体がきれいに整備され、自然との調和が取れていた。

21 の住区に分けて、段階的にまちづくりを行い、それぞれのコンセプトが異なっていても違和感が無い。

５年スパンぐらいで様々な特徴の地区が段階的につくられていることで、同時に高齢化問題等が起こるような状況をうまく回避している。長続きするまちのつくり方だと感じた。

普天間基地の６倍の広さを開発し、より良い住宅・職場・教育環境を整えて行くのは、一朝一夕で出来るものではないと思った。

新住や区画整理事業で整備された地域であるが、地主の理解と協力があってはじめてできた大規模開発だと感じた。

その他

区画整理事業地と新住事業地を比較して見てみると、区画整理事業地に乱雑さが見られた。

普天間飛行場跡地利用では…

大規模公園のあり方について

管理面・集客力・地域の雇用・経済効果を考えると、是非国営公園としたい。

国営公園誘致には思いだけではなく、アンテナを張り、色々な事と連携していくことが必要である（政治的な部分）。

昭和記念公園は、海・陸・空を連想した公園である。普天間跡地に公園をつくる時も、このバランスを取り入れたい。

昭和記念公園は全体の形がＬ字型になっており、その地形を活かした施設配置がされているが、普天間においても、地形や高低差等を考慮し、他の公園と違う独自性のある公園にしていかなければ長期的な利用がされないと思う。

公園をつくる上で自生樹木を活かすためには、事前の調査が必要である。（立川は十分な情報がなく、立ち入り可能となってから調査し、計画をつくり直している）

花火大会やマラソン大会等で集客を図っているので、普天間公園でもあらゆるイベントを行っていくべきなのかと感じた。

海洋博公園のような「集客力」と、昭和記念公園のような「身近さ」がうまく混ざり合った内容の公園ができれば良いと感じた。

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

多摩センター地区には景観ガイドラインがあり、統一されたすばらしい街の中心地を創り出そうという意志が見えた。普天間の跡地利用にも、住民の意向醸成で意思統一したガイドラインみたいなものをつくりたい。

立川市は「基地の町」から「公園のある町・緑のある町」に変わった。普天間も変われると思うので頑張りたい。

スケルトン型のまちづくりを考えても良いのではと思う。

多摩センター地区のようなペデストリアンデッキを導入して各地区をつなぎ、まち全体につながりを持たせたい。

普天間においても、段階的にまちをつくっていき、多種多様な人たちが集まるようにしたい。

ベネッセコーポレーションビルのような展望台を普天間飛行場の中心につくり、県内を一望できるようにしたい。

第９回普天間飛行場の跡地を考える若手の会　**本土視察研修会を踏まえたとりまとめ（Ｂグループ）**

視察会を踏まえた感想

国営昭和記念公園

国営公園整備までの経緯について

- 全域が国有地だったので、広大な国営の公園が可能だったのではないか。
- 国で運営されているが、地域住民・市・都などが一体となって計画がつくられた。また、昭和天皇御座位 50 年記念事業で公園を増やそうという流れも後押しした。
- 当初から立川に国営公園をつくろうという計画があったわけではなく、様々な構想が重なり合った結果つくられるようになったと感じた。
  また、地元の強い気持ちが立川に昭和記念公園をつくる際の選定要因になったということを知った。

公園の管理について

- 平日でも数千人規模の入園者がおり、地域の人の憩いの場となっている。そういう場をしっかり管理しなければならない事を感じた。
- 公園管理上も苗畑等の大規模なバックヤードが必要である事を感じた。

公園のつくり方について

- 広大なみんなの原っぱは、皆が一つの場所で様々に休日を楽しんでいるような光景が見られ、見ているだけでほのぼのした。
- これといった特別な施設は無かったが、自然に触れたり自由に走り回るには必要な規模であり、大きすぎることはなかった。
- 子供用施設があるおかげで集客力が向上している。また、文化ゾーンもあって良い。
- サイクリングコースは外回りや内回りコース等、結構な距離もあって運動にもよい。
- 公園に関しては、自然・緑の重要性、特に命の象徴としての「水」というテーマに魅力を感じた。
- 全域が歩道・自転車道・車道で完全に分離されていたのは、非常によいつくりだと感心した。
- それぞれの年代に合わせたゾーンをつくり、子どもからお年寄りまで遊べる公園という印象を受けた。
- 見学はできなかったが、写真や報告書を見ただけでも植物や花・緑のすばらしさがよく伝わってきた。
- 公園整備と同時に、アクセスとなる周辺道路の計画も必要である。昭和記念公園には、高速道路からの広域アクセスが弱いという弱点があった。

その他

- 基地の町というイメージを払拭していた。米軍基地であったという歴史を残す取り組みはされていない。
- 街と一体となったイルミネーションイベントを開催しており、より一層街と公園がつながっているという感覚が得られた。

多摩ニュータウン

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

- 居住空間に溶け込んだ自然としての「水（池や川）」に魅力を感じた。
- ５年から１０年単位での生活様式の変化に対応した宅地・住宅開発の変化を目の当たりに感じた。
- まちの中に緑が多くあり、緑と調和したまちづくりを行っていた。
- 緑の多さに感心した。

その他

- 「シャッター通り」もあった。

普天間飛行場跡地利用では…

大規模公園のあり方について

- 人が集まりやすいことを考える必要がある。
  ・子供向け施設、遊具等
- ホームレスが宿泊できないような方策も考える必要がある。
- 集まれる雰囲気づくりが大切である。誰でも参加できるような、そして安らげるような場としたい。
- 大人も含めた健康づくりに、サイクリングコースは最適である。
- 普天間の跡地の大規模公園も昭和記念公園のように、どの年代でも訪れることができるように緑を活かした公園にしたい。
- 公園として独立した空間をつくり上げる上では、100ha 規模は大きすぎない。
- 普天間基地跡ということで、飛行機博物館等もおもしろいのではないかと思う。
- 公園の管理を徹底し、ごみや野犬などの危険があってはならない。
- 管理面で、ボランティアの活用も検討すべきである。

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

- モノレールの誘致には多くの政治力が必要であると思う。政治家とのコミュニケーションが大事である。
- 時代の変化に対応できるまちづくりの進め方（段階型）を検討していく必要がある。
- 住宅街の緑化に力を入れるべきである。（屋上緑化も推奨する）
- 民間活力をいかに最大限に取り入れるかが重要である。
- 国・県・市・地権者の協力が不可欠である。また、イデオロギーは排除すべきである。
- 周辺市街地との調整は大いに重要である。

第９回普天間飛行場の跡地を考える若手の会　**本土視察研修会を踏まえたとりまとめ（Ｃグループ）**

視察会を踏まえた感想

国営昭和記念公園

国営公園整備までの経緯について

立川に最終的に決まったのは、地元の熱意が大きな要因だったようだが、普天間にも国営公園に対してそういった熱意のある人たちが多くいるものなのか。

公園の管理について

美ら海水族館と昭和記念公園では、管理にかかる人数が全然違い、施設管理に関わる雇用はあまり創出されていなかった。

知識に長けた職員がいて管理していることや、委託業者にも細かい管理方法を指示している事は、管理に対する熱意や誇りみたいなものを感じた。

1,000 人ものボランティアが参加していることから、地元の人たちの協働意識や関心の高さを感じた。

夜間門を閉めているためホームレスがおらず、安心して遊べる公園だと思った。

公園のつくり方について

美ら海水族館のようなインパクトのある施設はなかったが、どこへ行ってもそれなりに楽しむことができ、バランスが取れていると感じた。

東西南北から公園にアクセスできて利用しやすい。

木を１本１本調査し移植していったことは、歴史・自然を残すことにつながりよいと思った。

その他

沖縄に３番目の国営公園を作れるのか。

見て学ぶことが大事だと思った。（百聞は一見にしかず）

視察することは色々学べ、会もまとまるので非常に大事であると思う。

多摩ニュータウン

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

多摩ニュータウンの中心である多摩センター地区は、景観ガイドラインがつくられていて、きれいな街並みだった。

景観形成がしっかり調和が取れていないと美しい町とは言えないと思った。

段階的整備により、まち全体が高齢化しているようなことはなかった。

普天間飛行場跡地利用では…

大規模公園のあり方について

普天間公園では、雇用創出につながるような施設整備もありではないか。

普天間公園でも、今の緑をそのまま残して整備するとよい。

普天間公園では、歴史をふんだんに取り入れたものにすべきと思った。

国営にするための理念を考えるべきと思った。

100ha を一度ではなく、その時のニーズを踏まえて段階的に整備してもよいのではと思う。

大規模公園に 100ha が必要なのか考える必要がある。

企業的な公園なのか、市民・県民の癒しのための公園なのかを考える必要がある。

防災機能の活用や滑走路の活用等を考える必要がある。

基地跡地であったのは普天間と同じだが、国有地であった事を踏まえると、国営の大規模公園を計画するのであれば早めに用地確保する必要があると思う。

大規模な地区におけるまちづくりの進め方について

普天間でも特に拠点的な場所では景観のルールをつくり、他に誇れるまちづくりが必要である。

まちづくりにおいては、人の動線が大事である。遊歩道などの「連絡動線」の設置が必要である。

公園を２分割して、それを遊歩道で結ぶようなまちのイメージにしたい。

480ha 全体を大規模公園のようなイメージで整備し、その中でまちづくりを行うべきである。

地域ごとに地区計画を設定するとよいのでは。

新住宅市街地開発事業の良い点・悪い点を整理し、学習したい。